

令和7年度 第2回高梁市在宅医療・介護連携推進協議会次第

日 時 令和8年2月13日(金) 19時～

場 所 高梁市役所 2階保健センター

1 開 会

2 あ い さ つ

3 協 議 事 項

(1) 今年度の事業報告

(2) 来年度に向けての課題と方向性

市民公開講座の日程 令和8年11月8日(日) PM

4 そ の 他

5 閉 会

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿

令和6年4月1日～令和8年3月31日

◎会長 ○副会長

No.	所属及び役職名	氏 名	備 考
1	高梁医師会 会 長	◎ 仲 田 永 造	仲田医院
2	高梁医師会 理 事	鶴 見 尚 和	成羽病院
3	高梁医師会 理 事	野 村 良 明	野村医院
4	高梁医師会 理 事	松 浦 隆 彦	まつうらクリニッ ク
5	高梁歯科医師会	樋 口 将	樋口歯科医院
6	岡山県薬剤師会高梁支部	笹 川 隆 弘	落合薬局
7	(一社)岡山県介護支援専門員協会高梁支部 (一社)岡山県介護支援専門員協会 理事)	○ 草 野 貴 史	グリーンヒル順正
8	高梁市社会福祉法人連絡会	磯 村 葉 子	グリーンヒル順正
9	岡山県看護協会高梁支部	熊 本 里 子	大杉病院
10	岡山県栄養士会高梁支部 支部長	荒 木 枝 里	高梁中央病院
11	リハネット高梁	安 井 仁 見 代理 植田 崇弘	成羽病院
12	実務者部会 部会長	三 尾 あゆみ	高梁中央病院
13	実務者部会 副部会長	佐 藤 剛 紀	大杉病院
14	吉備国際大学 看護学部長	竹 崎 和 子	吉備国際大学
15	岡山県備北保健所 保健課 課長	田 頭 羊 子	備北保健所
16	高梁かんごねっと コーディネーター	原 田 邦 栄	高梁医師会
17	高梁市消防本部 警防課 課長	内 田 宏 範 代理 森宗 伸幸	消防本部警防課
18	高梁市健康福祉部健康づくり課 主幹	惣 田 美栄子	健康福祉部 健康づくり課

事務局

健康福祉部 地域包括支援センター 所長	秋森 貴恵
〃 〃 所長代理	赤木 日出美
〃 〃 参事	江藤 悦子
〃 〃 主幹	倉橋 重昭
〃 〃 保健師	中村 友樹

令和7年度 高梁市在宅医療・介護連携推進事業報告

全体目標	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療と介護の関係者が協力して、在宅医療と介護の連携強化を図る。
重点目標	医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。
	ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。
	人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。

今年度の評価	<p>医療機関及び介護事業所等がICTの利活用により業務の効率化、多職種連携の強化を図り、医療・介護サービスの質の向上につなげていくことは重要である。昨年度に引き続き、集合形式での多職種連携研修会を開催し53名の多職種が参加をした。アンケートより、83%の参加者が「大変良かった」、17%の参加者が「良かった」と回答するなど、非常に満足度の高い研修を実施する事ができた。引き続き専門職の顔の見える関係作りを強化していく。</p>
	<p>ラインワークスの加入状況であるが、1月末現在で102事業所・130IDで利用となっている。令和9年度より有料化（1IDにつき月500円）になる事を踏まえて、今後の利用継続についてアンケートを実施。有料となっても継続する事業所が81.8%になり、高梁市にはなくてはならない情報共有ツールとなっている事が伺えた。ICTの利活用による業務の効率化、連携強化により医療、介護サービスの充実が図れている。</p>
	<p>人生会議（ACP）について、今年度は専門職向けの普及啓発に力を入れ、ホームヘルパー・ケアマネジャー向けの普及啓発および視察研修を実施した。専門職に対しても、人生会議についての普及啓発を実施する事で、本人が望む医療やケアが進められることが期待できる。</p>

		計 画	実 績
今年度の主な事業	1	令和7年度高梁市医療・介護市民公開講座 ・若年性認知症をテーマにした映画「オレンジ・ランプ」の上映 ・脳の健康度チェックを実施	令和7年度高梁市医療・介護市民公開講座 ・若年性認知症をテーマにした映画「オレンジ・ランプ」の上映 ・ミニ講演「映画オレンジ・ランプを観て」 ・脳の健康度チェックを実施
	2	人生会議（ACP）の普及・啓発	・ホームヘルパー、ケアマネジャーへの普及啓発 ・専門職視察研修（奈義町社会福祉協議会） ・節目年齢健診対象者へのACPシートの送付 ・各種団体への講話
	3	ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討	・フォローアップミーティング（令和7年11月） 緊急時（災害時）のラインワークスの活用について ・令和8年1月 島根県東部地震における事業所被害の確認における活用 ・初級者向けショートウェビナー（令和7年6月） ・利用継続についてのアンケート調査（令和8年1月）
	4	実務者部会実施事業 ・専門職視察研修 ・多職種連携研修会 ・医療介護地域ネットワークシステムの検討	・令和7年9月 奈義町社会福祉協議会への視察 ・令和7年12月 多職種連携研修会 ・実務者部会での検討 ・施設用診療情報の活用状況調査
	5	高梁かんごねっと（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成	・令和7年6月 危険予知トレーニング研修 ・令和7年8月 摂食・嚥下研修 ・令和7年11月 皮膚・排泄ケア研修

会議	第1回	令和7年7月4日（金） ・令和7年度の事業計画について	高梁市役所 2階保健センター
	第2回	令和8年2月13日（金） ・令和7年度の事業報告 ・令和8年度に向けての課題と方向性	高梁市役所 2階保健センター

(1) 令和7年度高梁市医療・介護市民公開講座

開催日時 令和7年11月9日(日) 13時30分~15時40分

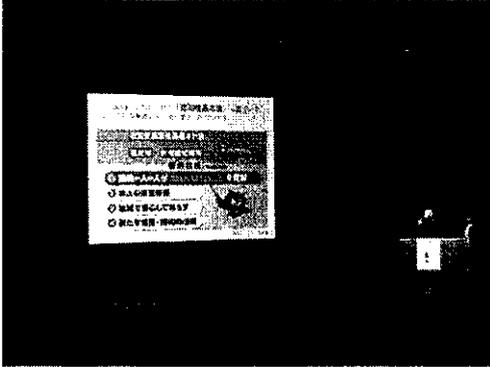
開催場所 高梁総合文化会館 大ホール

内 容 「オレンジ・ランプ」の上映

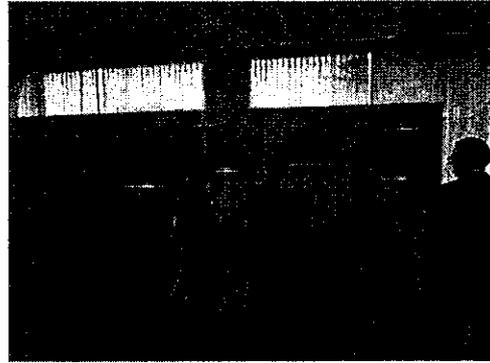
「映画オレンジ・ランプを観て」 さきがけホスピタル 副院長 兒玉 昌純 先生

参加者 350人

講演



医療・介護現場で働く人写真展



脳の健康度チェック



(2) 人生会議 (ACP) の普及・啓発

- ・ホームヘルパー研修会での普及啓発 5/31 20名参加
- ・ケアマネジャー研修会での普及啓発 6/20 30名参加
- ・専門職向け視察研修 奈義町社会福祉協議会 9/17 15名参加
- ・45歳・55歳・65歳節目健診対象者へのACPシートの送付 602名
- ・ホッと広場たかはしでの普及啓発 2/19 予定

(3) ICT を活用した医療・介護連携システムのあり方検討

- ・令和8年1月末日現在 102事業所、130IDで運用中。
- ・フォローアップミーティング(11/20) 緊急時(災害時)の活用について
1/4 発生の島根県東部地震における、介護事業所等の被害確認に使用
2時間で80IDがメッセージ既読となる

- ・初級者向けショートウェビナーの実施（6/5、6/12、6/18、6/24）
- ・利用継続についてのアンケート調査実施（1月）
- ・在宅医療・介護連携推進協議会（7/4、2/13）、実務者部会（7/18、10/24）で協議

（４）実務者部会実施事業

○会議開催

開催日	会議名	参加人数	内容
R7.7.18（金）	実務者部会（第1回）	17名	医療介護地域ネットワークシステムについて 医療・介護市民公開講座について 視察研修について 多職種連携研修会について
R7.9.17（水）	視察研修	15名	「住民・専門職・町とわか町の医療・介護・福祉・ 保健の連携システムをつくる ～小さな山間の 町の活動紹介～」 奈義町社会福祉協議会 植月 尚子 氏
R7.10.24（金）	実務者部会（第2回）	15名	視察研修の報告について 多職種連携研修会について 施設用診療情報の活用アンケートについて
R8.3	実務者部会（第3回） （予定）		医療介護地域ネットワークシステムについて 施設用診療情報活用アンケート結果について 令和7年度の事業報告 令和8年度に向けての課題と報告

○多職種連携研修会

日 時：令和7年12月12日（金） 19:00～20:20

場 所：高梁市役所3階大会議室（集合形式）

内 容：「岡山県北でのACP（人生会議）普及の取り組みについて」

講 師：岡山家庭医療センター 奈義・津山・湯郷ファミリークリニック 松下 明 先生

※講師のみリモート参加

参 加 者：市内医療・介護・福祉関係者 53名

(5) かんごねっと委託事業

1. 地域医療推進に向けた体制強化、関係機関の連携構築

- 1) 高梁市在宅医療・介護連携推進協議会及び実務者部会、地域包括ケアシステム検討委員会、看護師等確保検討部会、看護協会高梁支部役員会等に参加
- 2) かんごねっと新聞の発行（6月、10月、3月予定）

2. 看護職、介護職の地域医療スキルアップと人材育成

1) 企画会議

開催日時	開催場所	出席者	協議内容
5月20日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修について ・人材確保のための学生へのPRについて ・病院見学ツアー報告、その他、情報交換
8月12日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修、人材確保事業報告 ・企画会議のありかたについて ・情報交換
11月11日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	7名	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修報告 ・次年度の研修内容について ・情報交換
2月10日(火) 17:30~19:00	高梁医師会 2階会議室	名	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修についての評価（予定） ・次年度の計画について ・情報交換

*各施設から研修についての提案を受け、計画、実施、評価を行う。

2) 新入職者研修

講師：吉備国際大学 看護学部 看護学科長 竹崎 和子先生

開催日時	開催場所	参加人数	内容
4月14日(月) 15:30~17:00	高梁市図書館	8名	コミュニケーション技法
9月8日(月) 15:30~17:00	高梁市図書館	7名	自分軸
3月9日(月) 予定 15:30~17:00	高梁市図書館	名	1年間の学び

*参加者感想

- ・自分は、話を聞くことが上手ではなく、自分の話ばかりしてしまうので「オウム返し」ペーシングを使っていきたい。
- ・話す時間は、4~6割と学んだ。今後、大変なこともたくさんあると思うので、先輩や同期に相談しながら一歩ずつ進めていきたい。
- ・先生に悩みを打ち明け、丁寧にアドバイスをいただいたことで、元気がでた。
辞めることなく、自分のペースでゆっくり進んでいきたいと思う。

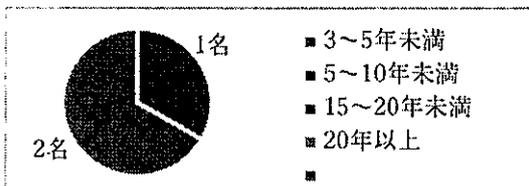


3) プリセプター研修

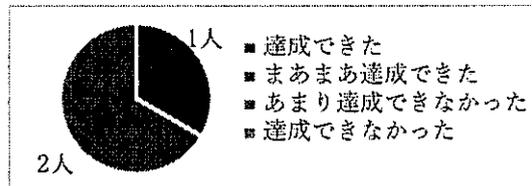
講師：吉備国際大学 看護学部 看護学科長 竹崎 和子先生

開催日時	開催場所	参加人数	内容
5月12日(月) 17:30~19:00	高梁市図書館	3名	プリセプターシップとは 新人看護師の特徴 プリセプターの役割
10月17日(金) 17:30~19:00	高梁市図書館	3名	プリセプターシップ ~こんな時どうする~

1. 看護師経験年数



2. 研修に参加し、目標が達成できましたか？



*今後、学びをどのように活用しますか？

- できていることに目を向け、新人と一緒に考えて成長していけるようにしたい。
- 時代の特性を理解して、プリセプティー個人の特性も理解したい。責任を感じ過ぎず周りに助けを求めながら、皆で育てていければよいと思った。
- プリセプティーの話をしっかり聞きながら、困っていることや出来ていることなどを共有し、一つずつ目の前の課題を乗り越えていきたい。
- 部署全体、病院全体で新人を育てていく必要がある事、上司にSOSを出してよい事。

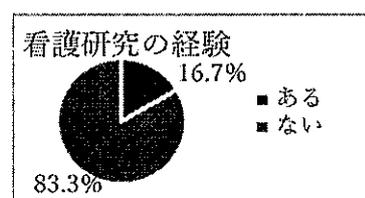
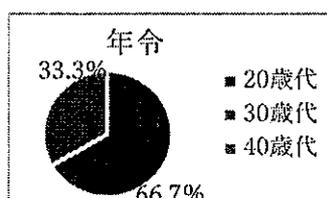
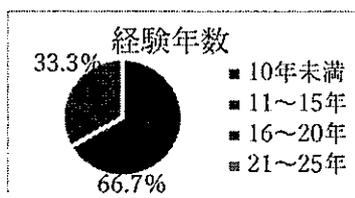


4) 看護研究研修

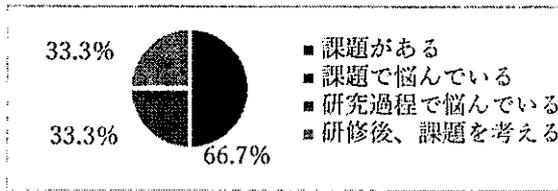
講師：吉備国際大学 看護学部 看護学科長 竹崎 和子先生

開催日時	開催場所	参加人数	内容
5月15日(木) 18:00~19:30	高梁市役所 3階会議室	6名	看護研究の基礎知識
9月4日(木) 18:00~19:30	高梁市役所 3階会議室	7名	研究の進め方 研究計画書
12月8日(月) 18:00~19:30	高梁市役所 3階会議室	4名	質的研究のデータ分析

*参加者について



看護研究を進めるにあたり（複数回答）



*受講しての感想

- ・何を目的として、だれのために行う研究なのか、とてもわかりやすかった。
他の方の研究内容をきいて、今後研究を取り組むにあたって考えやすかった。
- ・研究目的、テーマをしぼることに一番悩んでいたが、研究のうえで一番難しいところであることが理解できた。他の病院の方の研究テーマ、また悩みも知ることができ、心強かった。
お話をきくことができ、頑張ろうと思った。
色々、悩んでいるところを、「それで良いの」「大丈夫」と言ってくださり安心した。
- ・患者さんの思いがどのように変化するか、テーマを変更するほうが意義のある研究になると助言を頂いたので、これから頑張ろうと思う。
とても勉強になりましたし、本日の先生の意見を参考にすすめていきたい。
時間が足りないと思い、あせりを感じている。
- ・一つのテーマでも、みる視点により様々な考察ができること、現在考えているテーマに対して新たな視点を考えることができ、とても貴重な時間でした。ありがとうございました。
- ・基礎的な内容から研究への個別的な助言をいただくことができ、とてもよい研修会でした。
看護研究に、より前向きな気持ちになりました。

5) スキルアップ研修

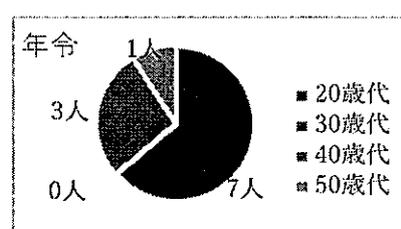
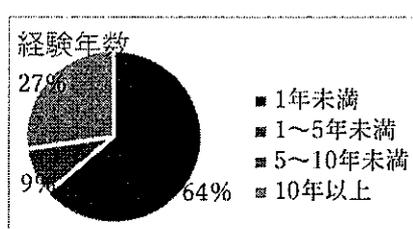
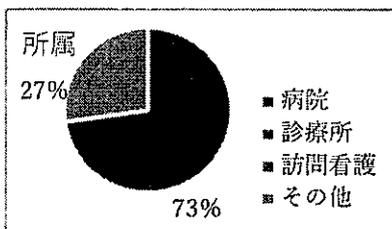
① フィジカルアセスメント研修

講師：岡山医療センター

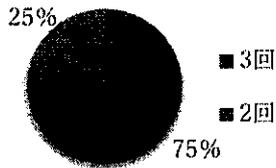
急性・重症看護専門看護、集中ケア認定看護師 中山 智代美 氏

開催日時	開催場所	参加人数	内容
7月26日(土) 13:30~15:30	吉備国際大学 地域医療福祉 センター (スキルラボ)	11名	フィジカルアセスメント～基礎編～
8月30日(土) 13:30~15:30		12名	フィジカルアセスメント～呼吸編～
9月27日(土) 13:30~15:30		12名	フィジカルアセスメント～循環器編～

*参加者について



受講回数



*研修に参加しての感想

- ・モデル人形を使用しての聴診で、4つの基本の副雑音を聴いた。現場で、しっかり音を聴いて、異常の早期発見に努めたい。
- ・副雑音について、看護記録に残す際に自分がどのような音を聴いたか伝わるよう、区別して聴取していこうと思った。
- ・患者さんの異常の変化に気づきたい。
- ・今後の看護業務に活かしていきたい。
- ・もっと色々、勉強して業務に励んでいきたい。
- ・普段の部屋回りのときから、呼吸数や聴診はするように心がけていましたが、呼吸数、副雑音、浮腫によって分かる疾患が多いため、アセスメントしながらより質の高い看護に繋がれると感じた。
- ・デイサービスで来られる方々の訴えを見落とさず、アセスメントできるようにしていきたい。通常の安定している状態や、その方の疾患名も知っておく。

② KYT (危険予知) 研修会 (多職種研修会)

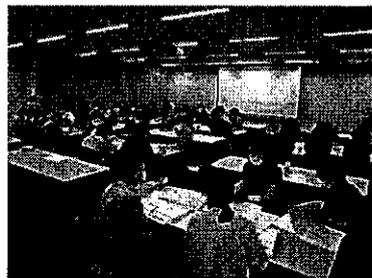
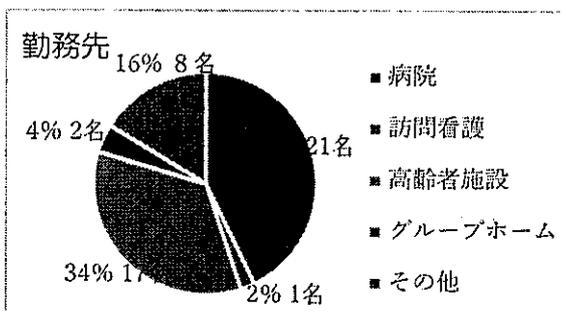
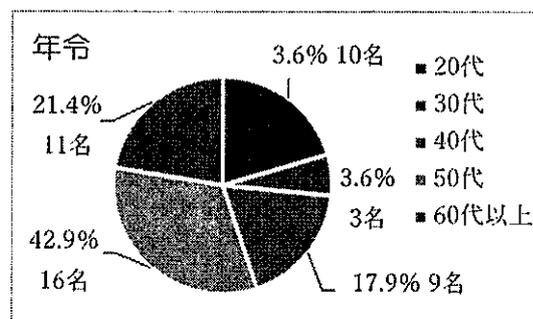
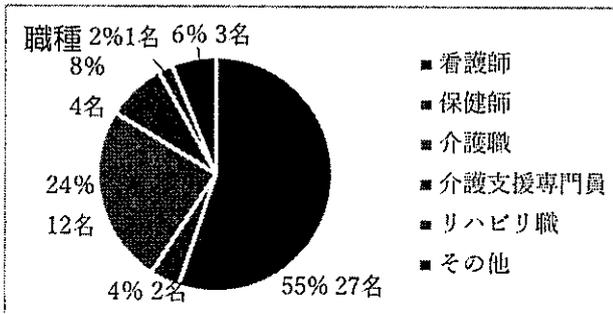
日時：令和7年6月27日(金) 18:30~19:30

場所：高梁市役所 3階会議室

内容：「危険予知トレーニング (KYT)」

講師：吉備国際大学 看護学部 看護学科 門倉 康恵 先生

アンケート結果 (49名回収/50名参加) 回収率 98%



- 今後、常にリスクがあると思いながら行動する。
- KYT トレーニングが体験でき、勉強になった。
- ヒヤリハットを報告することで、ひとつの危険を回避できると理解できた。
- 症例検討ができたので、対策方法を学ぶことができた。
- 研修受講したのが、自分だけではなく職場全体で患者、利用者さんに危険が及ばないように防止に努めていきたい。
- グループワークも楽しく、理解しやすい内容だった。
- KYTに興味が多いにあります、参考になったので、今後に役立てたい。
- これからも職場で研修し、色々な人の意見を取り入れヒヤリハットを話し合いたいと思う。
- 日常のいろいろな場面を改めて見直す機会をもつことが大切だと再認識し、事故防止に努めていきます。
- 人間はだれでも間違えるということを前提にすると、少し気が楽になります。間違いのないかどうかを色々な面から、検証していくことが大切だと感じた。
- KYT 研修というものを知らなかったが、グループワークで症例検討し、しっかり理解できた。事前に考えること (KY) の必要性を感じた。有意義な研修だった。
- 普段行っているケアに潜んでいるリスクを考えることができた。改めて患者さんに興味をもつことが、事故防止につながるのだと感じた。インシデントレポートの必要性も理解できた。
- 利用者さん、一人一人について、細かく考えることができた。注意事項も思い浮かんでよかった。
- 医療安全をがんばってほしいと思った。

③ 摂食・嚥下研修会（多職種研修会）

日時：令和7年8月26日（火） 18:30～19:30

場所：高梁市役所 3階会議室

内容：講演：「安全なひと口を導くケア～介護者にできること・すべきこと～」

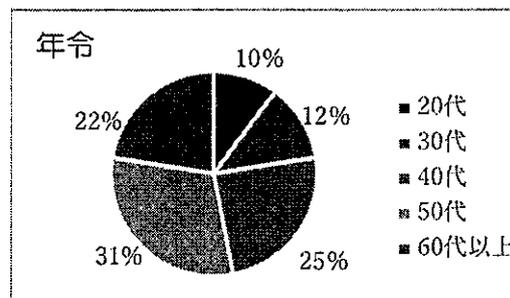
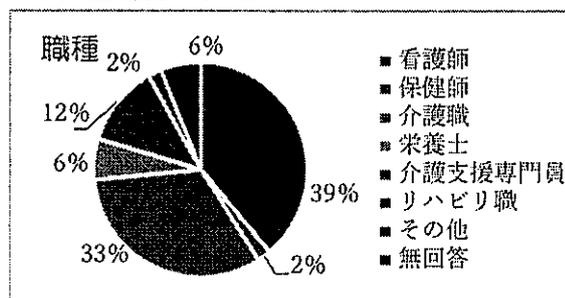
講師：新見公立大学 看護学科 飯田 尚美 先生

摂食・嚥下障害看護認定看護師

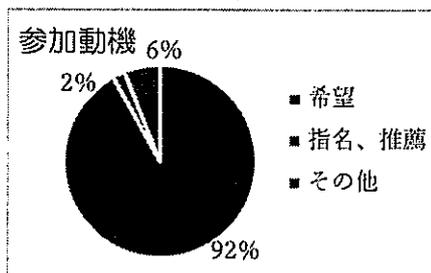
（岡山県看護協会 在宅ケアアドバイザー）

アンケート結果（49/49名参加） 回収率 100%

1. 自身について



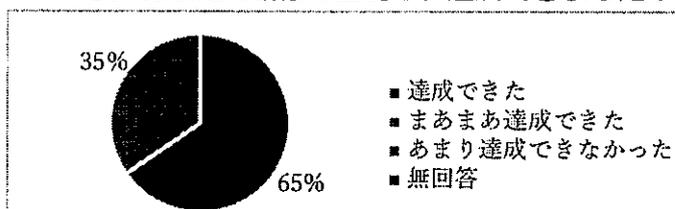
2. 参加動機



《その理由》

- ・同居の義父がうまく嚥下できなくなりはじめ、興味があった。
- ・学んだことを仕事で活かしたいと思った。
- ・病棟で誤嚥性肺炎の患者が多く、摂食介助方法を学ぶため。
- ・自己研鑽し、他の職員にも学んだことを指導したいから。
- ・食事介助において、知識をつけたいから。
- ・摂食嚥下低下の入所が多く、改善策をみつけたかった。
- ・実際に現場で困っていることもあり、内容に興味があった。自分にもできることを見つけたかった。
- ・施設入所者に高齢者が多く、知識を身につけたかった。
- ・脳梗塞後の方が施設に帰荘され、しっかり口腔ケアを行い、現在は全量摂取できている。今後に向け、学びのため。
- ・嚥下アプローチの再確認。

3. あなたの研修の目的は、達成できましたか？



《その理由》

- ・食事介入の仕方、安全な摂取方法を学んだ。わかりやすい内容、資料で楽しい研修会だった。
- ・業務上、活用できる内容が多かった。食べる姿勢も習得できた。
- ・新しいことも知ることができた。施設内に持ち帰り、資料も提出し共有したい。
- ・パーキンソン病の方など服薬内容等もしっかり確認し、医師にも確認しかかわりをもっていきたい。
- ・養護老人ホームでは、入所者に介助なしの状況であるが、入所者の方のメリットになる内容がたくさん聴けた。
- ・誤嚥の種類、食事介助時の注意点が多く学べた。
- ・摂食嚥下障害の原因、メカニズム、不顕性誤嚥等、解剖的なことも学べた。
- ・特養での勤務経験が浅く、実は「何となく」食事介助していたので、本日おしえていただいたことを明日から、早速実践してみます。

④ 皮膚・排泄ケア研修（多職種研修会）

日時：令和7年11月18日（火） 18:30～19:30

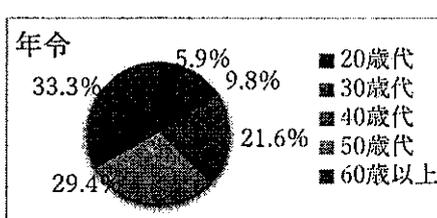
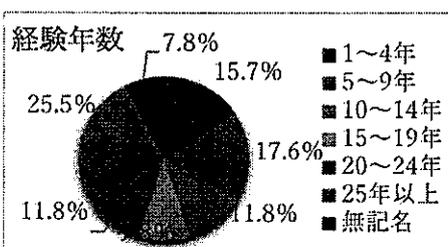
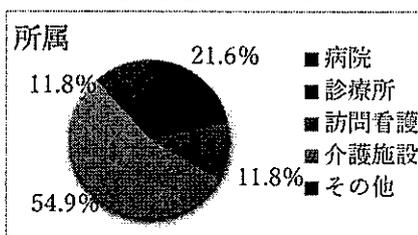
場所：高梁市役所 3階会議室

内容：講演：「まるっと キズを見てみましょう」

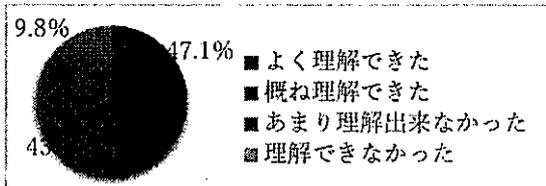
講師：高梁市国民健康保険成羽病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 丸橋 理絵 氏

アンケート結果（51名回収/51名参加）回収率100%

1. 参加者について



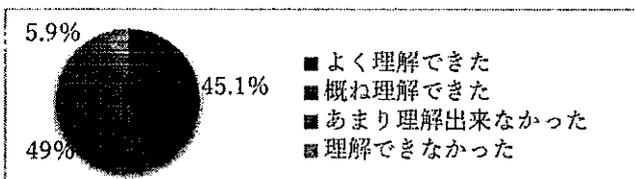
2. 傷をきれいに治すポイント、理解できましたか？



(その理由)

- ・ 湿潤環境の大切さ、処置の方法を学ぶことができた。
- ・ 異物を取り除き、細胞の働きを促すことで三次治癒ができると理解した。
- ・ 微温等洗浄、界面活性剤の泡洗浄、何よりも皮膚事態が最高の被覆材なので、皮膚をできるだけもとに戻す。
- ・ とても分かりやすい資料だった。
- ・ 家庭でもできる処置内容を知ることができた。
- ・ 湿潤環境が治癒を促進するが、感染状態（細菌がある状態）では、ドレッシング剤により、悪化を招くということが分かった。
- ・ 研修内容は理解できたが、現場に材料がなく判断に迷うことがある。
- ・ 自分は、介護のため内容理解することに難しく、あまり理解できなかった。
- ・ 介護職なので、被覆材もたくさんあり選択することも難しいので、看護師に聞きながら学んでいきたいと思った。

3. 皮膚が剥がれてしまったときの対応方法について理解できましたか。



(その理由)

- ・ 皮膚をできるだけ、もとに戻すこと。なぜなら、皮膚が一番効果の高い被覆材と言われた。
- ・ もとに戻した皮膚をテープで固定し、創面が乾燥しないようにする。
- ・ 詳しい説明だったので、理解しやすかった。
- ・ 今まで、体験、経験したことがなかったので、自分は理解しにくかった。
- ・ 特養で勤務していますが、材料は個人負担となっている。
研修内容を聴いて、現在使用しているものがあるので、よかった。
- ・ 以前、看護師が教えてくれた通りだった。
- ・ 泡洗浄し、剥がれた皮膚をできるだけ元にもどし、テープとドレッシングで保護、理解できた。
- ・ 普段から実践しているので、復習になった。
- ・ 次回は実物も見てみたい。

4. 皮膚・排泄ケアで今後何が学びたいですか？

- おむつ着用者の陰部、臀部のただれについてケア方法、軟膏の選び方など。
- 介護士にも分かりやすい薬剤をしりたい。
- 清拭の大切さ、陰部洗浄について。
- 怪我の手当について、実技も見てみたい。
- 褥瘡の処置方法、仙骨部褥瘡など。
- ストマケア・・・腹満著明時の貼り換え方法、体位の方法、便漏れ時の対応、ストマ用具の選択
ストマ周囲の皮膚ケアの方法。

⑤ 緩和ケア研修（予定）

日時：令和8年2月12日（木） 17:30～18:30

開催：オンライン研修（ZOOM）（高梁中央病院と共催）

内容：「意思決定支援について」

講師：川崎医科大学附属病院 がん看護専門看護師 看護部長 平松 貴子 氏

6. 訪問看護ステーションの連携構築

★訪問看護ステーション間の情報交換会

開催日時	開催場所	参加人数	内容
6月12日(水) 17:30～	高梁医師会 2階会議室	8名	・今年度、活動計画（岡山県看護協会と共催） ・情報交換
9月11日(木) 17:30～	高梁医師会 2階会議室	7名	・看護職スキルアップ研修会報告、今後研修会 ・情報交換、診療報酬に関する意見交換
12月18日(木) 17:30～	高梁医師会 2階会議室	8名	・看護協会より研修会開催について ・高梁地域の医療・介護の現状と課題について ・各ステーション作成BCP（必要性再確認）
3月12日(木) 17:30～	高梁医師会 2階会議室	名	・看護協会共催研修について（研修会2回予定） ・情報交換 ・次年度計画

★訪問看護ステーションの機能強化に向けた事業連携検討委員会 地域部会 （岡山県看護協会 訪問看護総合支援センター事業）

地域部会開催目的

令和7年度岡山県訪問看護総合支援センター事業概要（案）

訪問看護総合支援センターは、訪問看護に係る様々な課題を一体化・一元的に解決し、地域における訪問看護提供体制の安定化・推進支援を図る拠点であり、ナースセンターや関係団体、行政等と連携し、3つの目的と7つの機能を担う。

目的

- I 経営支援・・・① 事業所運営基盤整備支援 ② 訪問看護事業所の開設支援
- II 人材確保・・・③ 潜在看護師、プラチナナース等の就職および転職促進
④ 人材出向支援 ⑤ 新卒訪問看護師採用に向けた取り組み
- III 訪問看護の質向上・・・⑥ 訪問看護に関する情報分析 ⑦ 教育、研修実施体制の組織化

岡山県看護協会 訪問看護総合支援センターより来訪

令和7年6月12日・・・岡山県看護協会 地域包括ケア推進室室長 江田 純子氏
（内容）

「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価ガイドライン（第2版）」
（全国訪問看護事業協会）の記載について説明を受ける。

各事業所で自己評価を行い、この1年間の運営・活動について振り返りを行う。事業所の運営状況が見える化し、事業所の活動計画に活かし訪問看護事業の継続推進を目的とする。

→ 各事業所に看護協会よりメールで配信された、自己評価シート（42項目）を7月14日までに返信する。

まず、R6年度の状況を入力し情報共有する。

共通課題があがれば、みんなで協力体制などつくってみてはどうか。

みんなで共同、協力して見える化し、それがモデル地域になれば良い。

共通点、こままっていることが理解できる。

令和7年12月18日・・・岡山県看護協会 専務理事 植野 真寿美氏

岡山県看護協会 地域包括ケア推進室室長 江田 純子氏

（内容）

「令和7年高梁地域の訪問看護事業所の現状と課題」として、自己評価ガイドラインによる自己評価結果説明。

各項目の自己評価結果を60%以上達成されている項目、60%以下の達成度、と理解しやすく可視化されていた。

→ このことより、高梁市内訪問看護ステーションにおいて、弱い面について検討。「訪問看護師が、新生児・乳児の医療的ケアを学び、小児訪問看護実践に活かすことができる」を目的とした。

令和8年2月、3月で研修会を2回実施する予定。

岡山県看護協会とかんこねっとで、研修会開催にむけ、調整をおこなっていく。

講師に関しても吉備国際大学にも依頼し、検討していただいている状況。

★ 訪問看護ステーションの質向上と連携構築に関しては、現状通りの各ステーション情報交換会に加え、令和8年度も岡山県看護協会が共催となる。

7. 人材確保のための学生へのPR

1) 看護学校訪問

月日	訪問先	対応者	訪問者
令和7年 4月25日 (月)	吉備国際大学	キャリアサポート 下崎氏 看護学科 本郷貴士 助教授	さきがけ 井村看護部長 大杉 熊本総看護師長
	県立真庭高等学校	藤井 邦臣 教頭 (今後は、松田先生)	成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長
	岡山県立大学	助産学 三谷明美 准教授	市役所 惣田主幹 笹部係長
	川崎医療福祉大学	富田早苗 教授	清水主任 かんこねっと 原田
令和7年 4月26日 (火)	倉敷中央高等学校	河本恵理子 看護科長	さきがけ 井村看護部長 成羽 高下看護部長 高梁中央 森看護部長
	倉敷翠松高等学校	尾崎由加利 実習調整者	
	倉敷看護専門学校	牧野尚子 教務科長	
	玉野総合医療専門学校	吉見美保 教務主任	市役所 惣田主幹 清水主任 かんこねっと 原田
	川崎医療短期大学	吉井一恵 助教授	
	旭川荘厚生専門学校	吉本美代子 看護学科長	

* 学生はネット検索し、自分で就職先を決めている。また実習先への希望が半数を占めている。
(マイナビサイトを多くの学生が利用している。)

- * 学生が選ぶ条件としては、きれいな建築物を好む学生が多い。
ホームページを検索する学生が多い。
大都市にあこがれて東京、大阪を希望する学生もいるが、実習先の病院を選ぶ学生が多い。
最近では、訪問看護師を選ぶ学生も以前より増えた。
- * 旭川荘では、54名入学生のうち2割が社会人枠で入学。
社会人は学習もしっかりされるし、若い学生にとっては社会性、人間性が養われる。



2) 高等学校訪問 (県西部)

訪問日：令和7年7月14日(月)

訪問先	対応者	訪問者
総社高校	國政信弘先生(進路指導課長)	吉備国際大学 竹崎看護学科長
総社南高校	池田正寛先生(進路課長)	
矢掛高校	藤島順子先生(進路課長)	
興讓館高校	多田健一先生(進路指導部長)	高梁市役所 惣田主幹
井原高校	西村航・小野歩夢先生(教諭)	
新見高校	剣持先生(進路指導)	かんごねっと 原田
共生高校	山縣淳憲校長・肥田由佳梨先生	
高梁高校	古村英治先生(進路指導課)	
高梁城南高校	小松基樹先生(進路指導課)	

* 高梁市の奨学金制度について説明し、看護師を目指している学生に広報をお願いします。

3) 病院見学ツアー

日程：令和7年5月17日(土)

備中高梁駅 2階図書館前 9時30分集合
 ⇒ さきがけホスピタル 9時50分~10時20分視察 ⇒ 成羽病院 10時30分~11時視察
 ⇒ 昼食(朝日堂) 11時30分~12時30分 ⇒ 高梁市成羽美術館 12時45分~13時20分
 ⇒ 大杉病院 13時40分~14時10分視察 ⇒ 高梁中央病院 14時20分~14時50分視察
 ⇒ 備中高梁駅東口 15時15分散

* 参加者4名。

新見共生高校(2名) 海外留学生3年生
 倉敷翠松高等学校(1名) 看護学科1年生
 旭川荘厚生専門学院(1名) 看護学科2年生

新見共生高等学校留学生も日本語学習中であり、看護師を目指している。
 現在、高梁市内病院でアルバイト実施している。

《アンケートから》

- それぞれの病院の特徴をみることができた。それぞれの役割で地域医療のため、患者さんへの支援に取り組まれていることがわかった。
- 手術室が、広くてすごかった。
- 新任看護師が安心して勤務できるよう、配置などに配慮されていた。
- ヘリポートに行けて嬉しかった。
- いろいろ廻れて、将来に役立つことなのでよかった。
- 災害拠点病院もあり、岡山市内同様の役割をされていると思った。



4) わくわく子どもフェスタ

開催日：令和7年6月17日(土) 10:00~14:30

開催場所：高梁栄町商店街

主旨：次世代を担う子供たちに、医療に興味を持ってもらう。

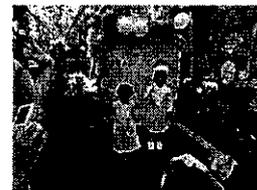
内容：令和6年度より、吉備国際大学看護学科と共催。

看護学生にパネル作成を依頼。パネル前で、なりきり看護師となり、写真撮影。

聴診器、包帯巻き体験やクイズに挑戦してもらうコーナーを設置。

赤ちゃんモデル人形を用いたおむつ交換、ミルク授乳体験は子供たちに人気があった。

高梁の医療について、パネルと高梁市奨学金制度を記載したパンフレットも展示した。



5) 高梁市民公開講座

日時：令和7年11月9日(日) 13:30~16:00

場所：高梁市文化会館

*岡山県看護協会と共催。

看護師活動を知っていただくため、グッズ配布。(100部)



岡山県の「かんどちゃん」

6) 吉備国際大学との連携

(1) 保健医療福祉行政論の講義 (高梁市健康づくり課と出席)

日時：令和7年5月9日(金) 13:30~15:00

場所：吉備国際大学7号館5階公衆衛生看護実習室

対象：吉備国際大学看護学部看護学科4年生15名

テーマ：「高梁かんどねっとにおける取り組みについて
～看護職の人材確保対策を中心に～」

講師：一般社団法人高梁医師会 高梁かんどねっと 原田邦栄



清水主任



原田

7) 高梁小学校との連携

(1) 保健医療福祉行政論の講義

日時：令和7年10月8日(水) 10:30~11:30

場所：高梁小学校 会議室

対象：6年生

テーマ：「総合的な学習の時間 {働く人から学ぼう}」

内容：看護師の仕事内容、現在の仕事に就くまでの歩み、仕事のやりがい、今6年生に
伝えたいこと、これからの6年生に期待すること

講師：一般社団法人高梁医師会 高梁かんどねっと 原田邦栄

8) 各団体との連携 委員として参加

(1) 高梁市で実施している協議会

(2) 岡山県看護協会 高梁支部役員会

① 令和7年4月23日(水) 15:00 高梁支部役員会 備北保健所1階会議室

② 令和7年6月24日(火) 13:00 高梁支部研修会・役員会 高梁国際ホテル

③ 令和7年10月21日(火) 13:00 高梁支部研修会・役員会 高梁国際ホテル

④ 令和7年11月9日(土) 13:30 高梁市文化会館 グッズ配布

⑤ 令和8年3月5日(木) 13:00 高梁支部研修会・役員会 高梁国際ホテル

(3) 岡山県看護協会 「中山間地域における看護職員確保推進の体制整備事業」(R6~8年度事業)

「岡山県北の看護の魅力発信事業」

日時：令和8年2月26日（木）13:30～

場所：岡山県看護協会 4階 マスカットホール（ハイブリット開催）

内容：・県からの情報提供

- ・各地域からの発表 高梁市の取り組み発表
- 高梁かんどねっとの取り組み発表
- 高梁市内看護師、サポートチームメンバーからの発表

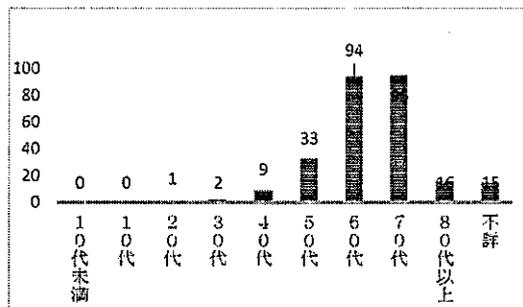
* 太字は、今年度末までの予定事業

令和7年度高梁市医療・介護市民公開講座アンケート結果

回答者 265名 (参加者 350名) 回収率 75.7%

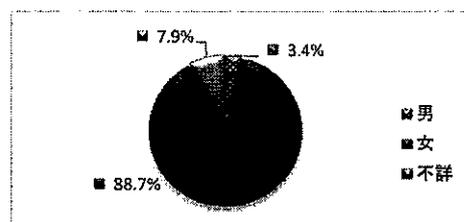
年齢

10代未満	0
10代	0
20代	1
30代	2
40代	9
50代	33
60代	94
70代	95
80代以上	16
不詳	15
合計	265



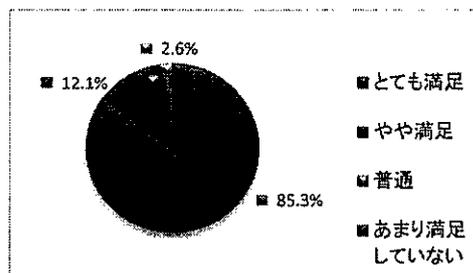
性別

男	9
女	235
不詳	21
合計	265



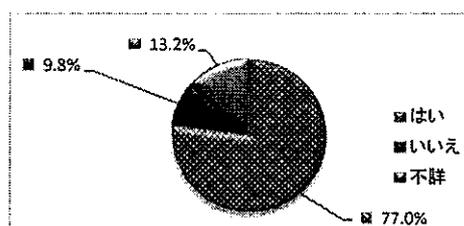
映画の満足度

とても満足	198
やや満足	28
普通	6
あまり満足していない	0
満足していない	0
合計	232



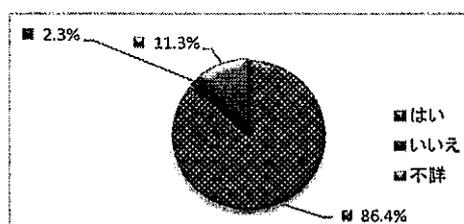
認知症のイメージが変わった

はい	204
いいえ	26
不詳	35
合計	265



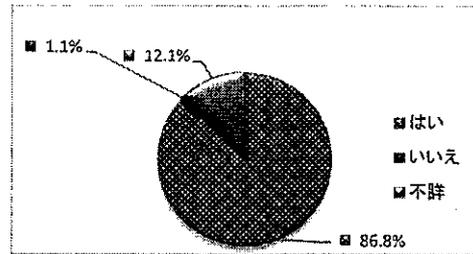
認知症を自分ごととして考えた

はい	229
いいえ	6
不詳	30
合計	265



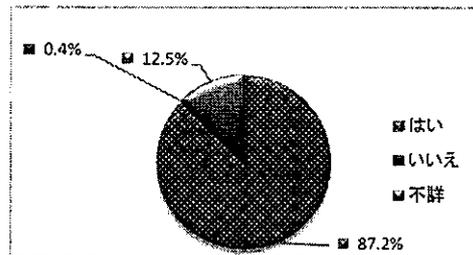
認知症の方を見かけたら、自分にできることをしたいと思った

はい	230
いいえ	3
不詳	32
合計	265



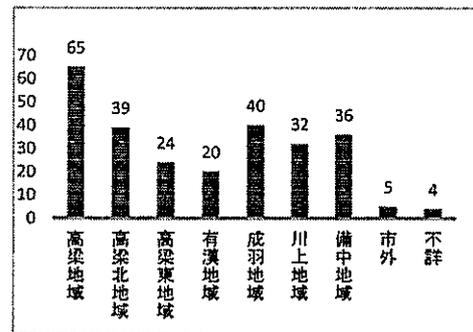
認知症にやさしいまちづくりに協力したいと思った

はい	231
いいえ	1
不詳	33
合計	265



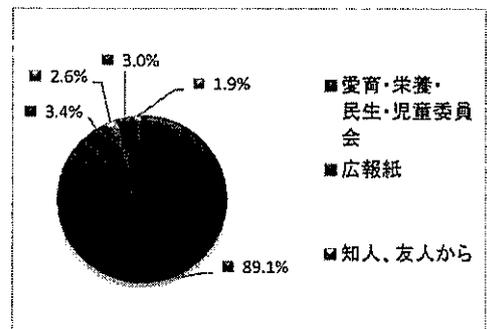
住まいの地域

高梁地域	65	25%
高梁北地域	39	15%
高梁東地域	24	9%
有漢地域	20	8%
成羽地域	40	15%
川上地域	32	12%
備中地域	36	14%
市外	5	2%
不詳	4	2%
合計	265	100%



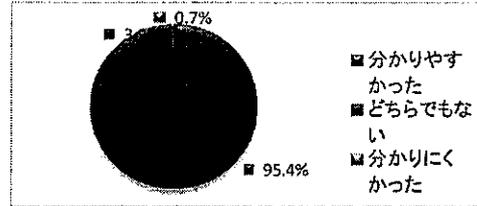
本日の市民公開講座の開催は、何から情報を得ましたか

愛育・栄養・民生・児童委員会	236
広報紙	9
知人、友人から	7
その他	8
不詳	5
合計	265



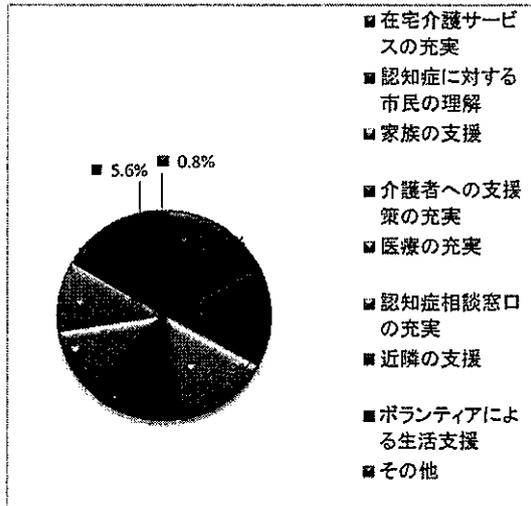
見玉先生のミニ講演は、いかがでしたか

分かりやすかった	145
どちらでもない	6
分かりにくかった	1
合計	152



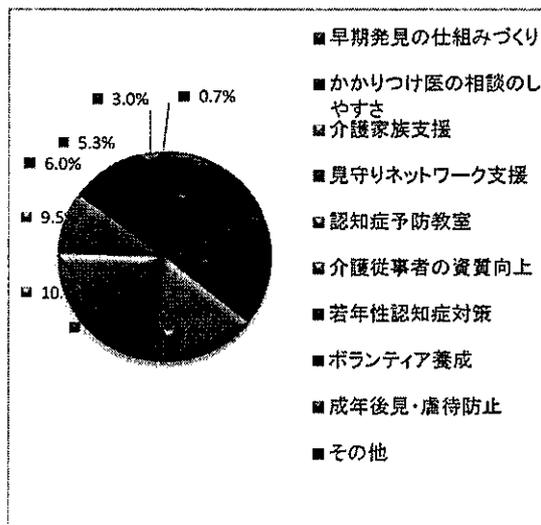
認知症になったとしても、どのような支援があれば住み慣れた高梁市で暮らし続けることができると思いますか？(複数回答可)

在宅介護サービスの充実	165
認知症に対する市民の理解	156
家族の支援	145
介護者への支援策の充実	131
医療の充実	110
認知症相談窓口の充実	106
近隣の支援	98
ボランティアによる生活支援	55
その他	8
合計	809



高梁市が今後の認知症施策を進めていくうえで、どのようなことに最も重点を置く必要があると思いますか？(複数回答可)

早期発見の仕組みづくり	131
かかりつけ医の相談のしやすさ	131
介護家族支援	124
見守りネットワーク支援	94
認知症予防教室	74
介護従事者の資質向上	70
若年性認知症対策	44
ボランティア養成	39
成年後見・虐待防止	22
その他	5
合計	734

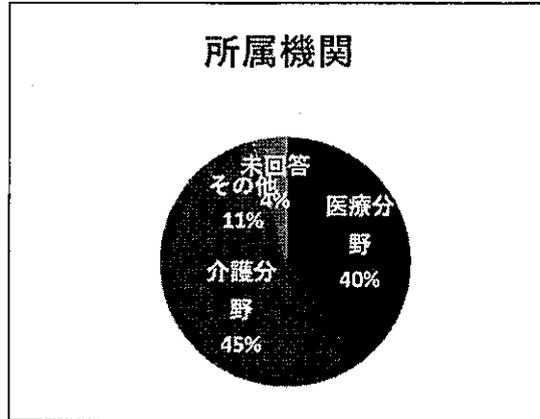


12月12日 多職種連携研修会アンケート結果

参加者 53名 アンケート 47名 (回答率 88.7%)

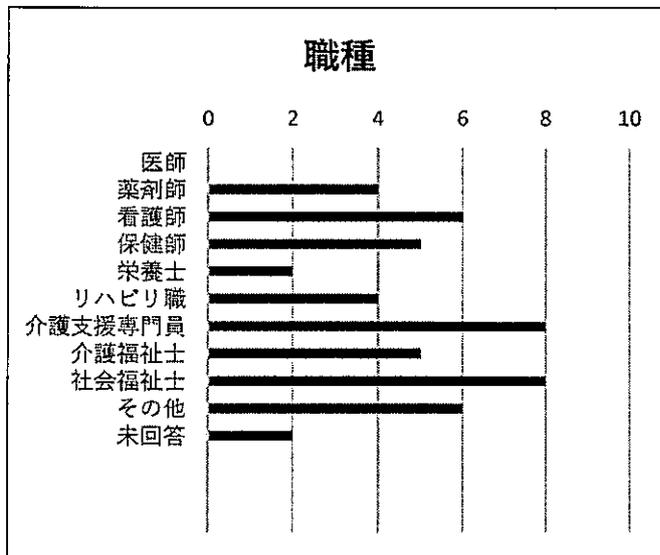
所属機関

医療分野	19
介護分野	21
その他	5
未回答	2



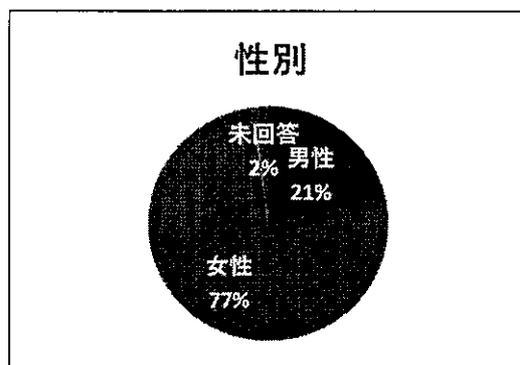
職種

医師	0
薬剤師	4
看護師	6
保健師	5
栄養士	2
リハビリ職	4
介護支援専門員	8
介護福祉士	5
社会福祉士	8
その他	6
未回答	2



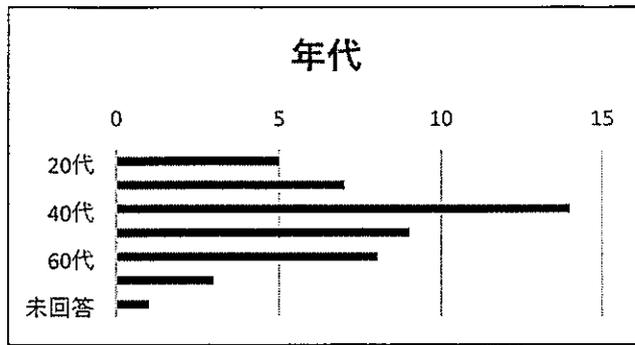
性別

男性	10
女性	36
未回答	1



年代

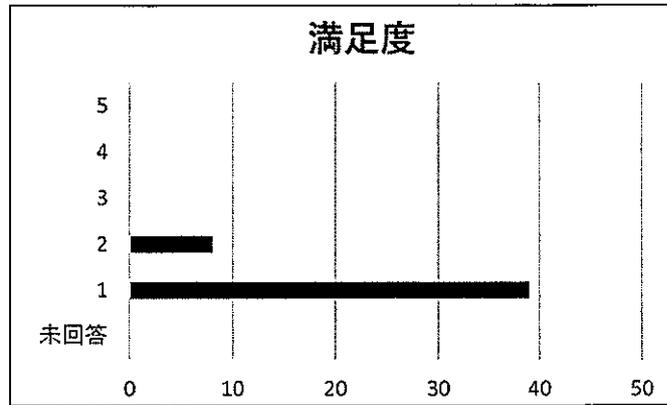
20代	5
30代	7
40代	14
50代	9
60代	8
70代	3
未回答	1



満足度

未回答	0
1	39
2	8
3	0
4	0
5	0

大変よかった
 ↑
 ↓
 よくなかった



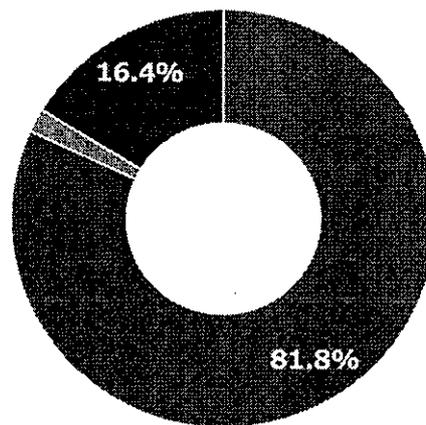
FINE-LINK+ 継続利用に関するご意向確認_高梁市 (令和9年度以降)

FINE-LINK+地域アドバイザー
25.12.17 11:30 ~ 26.01.24 17:00

回答 110

1. 継続利用のご意向について

回答 110 未回答 0

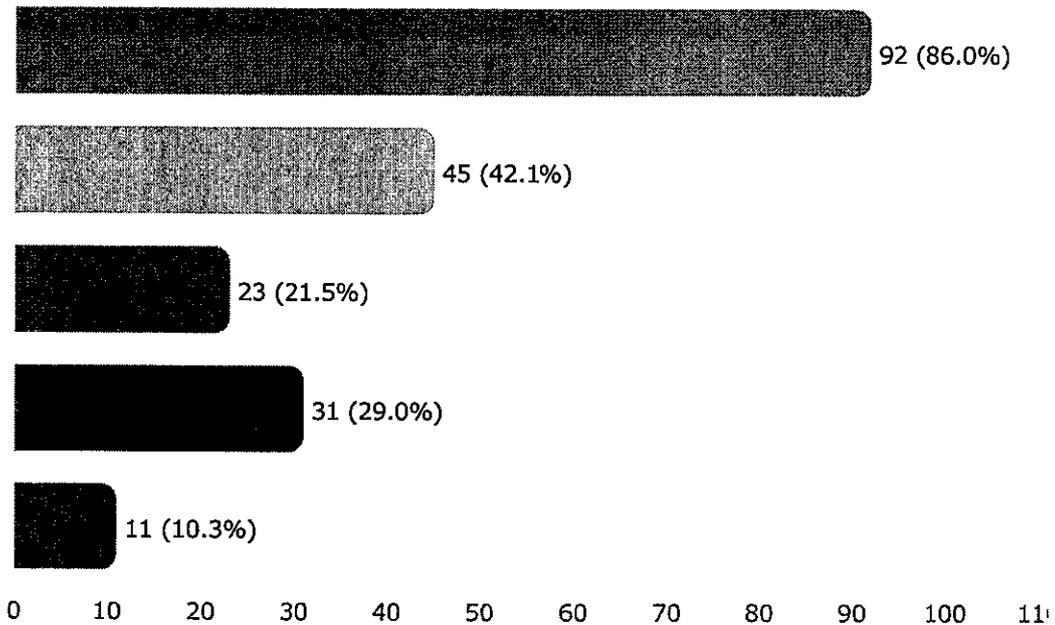


選択肢順 ▼

①継続する	90 (81.8%)
②継続しない	2 (1.8%)
③現時点では未定	18 (16.4%)

2. 【①「継続する」または③「未定」と回答された方へ】継続を検討する主な理由 (未定の場合は期待する点) をお聞かせください。

回答 107 未回答 3

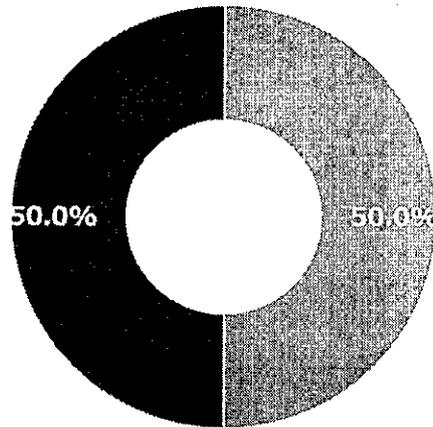


選択肢順 ▾

① 事業所間の情報共有・連携に欠かせないツールとなっているから	92 (86.0%)
② 災害時や緊急時の連絡手段として、その価値を高く評価しているから	45 (42.1%)
③ 活用している「〇〇機能」や「△△機能」が事業所の業務効率化に大きく貢献しているから	23 (21.5%)
④ 今後、さらなる機能強化や、安定したサポート体制に期待しているから	31 (29.0%)
その他	11 (10.3%)

3. 【④「継続しない」と回答された方へ】継続しない理由、および継続に至るための条件についてお聞かせください。

回答 2 未回答 108



選択肢順 ▼

① 費用負担の発生により、予算上の継続が困難になるため	0
② 現在の利用頻度や活用状況に対して、月額500円の価値が見出せないため	1 (50.0%)
③ 既に代替可能な別のツールや連絡手段に移行する予定があるため	0
その他	1 (50.0%)

4. 【②「継続しない」と回答された方へ】継続利用を前向きにご検討いただくための「最重要の改善点」または「追加機能」は何でしょうか？

回答 2 未回答 108

なし

現在の機能で十分です。

すべての回答2件を見る

内規

(平成25年5月20日制定)

高梁市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱(内規)

(設置)

第1条 在宅医療及び介護を一体的に提供できる支援体制の構築を検討することを目的とし、高梁市地域包括支援センター運営協議会要綱(平成18年高梁市告示第85号)第9条に基づき協議会として、高梁市在宅医療・介護連携推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 協議会は、次の事項について協議及び検討を行う。

- (1) 地域の医療・介護の資源の把握に関する事。
- (2) 在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討に関する事。
- (3) 切れ目のない在宅医療及び在宅介護の提供体制の構築推進に関する事。
- (4) 医療・介護関係者の情報共有の支援に関する事。
- (5) 在宅医療・介護連携に関する相談支援に関する事。
- (6) 医療・介護関係者の研修に関する事。
- (7) 在宅医療・介護連携に関する地域住民への普及啓発に関する事。
- (8) 在宅医療・介護連携に関する他の自治体等との連携に関する事。

(組織)

第3条 協議会は、関係団体の代表者、関係行政機関の職員その他市長が必要と認める者をもって構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。

- 2 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 公職にあることにより選任された委員は、その職を退いたときに委員の職を失うものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長1人及び副会長若干人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

(専門部会)

第7条 第2条の所掌事務に関する具体的事項について調査及び研究するため、協議会に専門部会（以下「部会」という。）を置くことができる。

2 部会は、会長が委員並びに医療、介護及び福祉関係者等の中から指名した者で構成する。

3 部会に部会長及び副部会長を置き、会長がこれを指名する。

4 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(意見の聴取)

第8条 協議会及び部会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その説明を受け、または意見を聴取することができる。

(庶務)

第9条 協議会の庶務は、地域包括支援センターにおいて処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、令和4年4月1日から施行する。